

国土交通省政策会議（第20回）議事要旨

1. 日時 平成22年4月13日（火）8：00～9：00

2. 場所 衆議院第一議員会館 第1会議室

3. 出席者

【国土交通省】馬淵澄夫副大臣、長安豊大臣政務官

4. 議題

○高速道路の再検証結果と新たな料金割引について

5. 議事要旨

（1）挨拶

（2）議事要旨

○配布資料に沿って説明

○質疑

（3）出席議員からの主な意見

- ・ 首都高の新料金制度は、1都3県の運送会社の平均輸送距離を考慮しているのか。平均的な利用距離の人は値上げになるのではないか。
- ・ ETCについては、財団への天下りに関連して国会で批判してきたが、今回の首都高の新料金制度はETC限定となっている。この矛盾についてどう整理するのか。
- ・ トラックは高速道路へ誘導すべきであり、更に値段を下げてよいのではないか。無料にしてもよいと考える。
- ・ 本四については、フェリーに配慮したとのことだが、四国の期待はフェリーだけではない。フェリーに期待していない人にとっては、本四だけ高額に設定されている理由が分からない。
- ・ マスコミでは、高速道路を整備するために料金割引を縮小しているという論調になっている。何が今回の狙いなのか明確にすべき。
- ・ 整備箇所については、国幹会議で決定されたが、民主党は国幹会議自体に反対したはずであり、国幹会議で決めたからという説明はよくない。なぜ、整備が必要なのかを説明すべき。

- ・ 「高速道路整備を民間会社が行う」と整理することは、「無料化」と言っていることと矛盾するのではないか。
- ・ 無料化への移行については財源が必要。ガソリン税の一部を使うなど必要な財源を探すべき。
- ・ 長距離移動に対する料金を下げすぎではないか。大型車、特大車の多くが高速道路へ転換した場合、CO₂排出量が増大するおそれがある。また、フェリーを使っていたトラックの高速道路への転換が予想されるが、モーダルシフトの観点からもフェリーを使うべき。トラックで長距離を走らせるのが政府の施策なのか。

～以上～